

平和週間 (8月4日～10日) 期間中のイベント

原爆パネル展

令和6年8月4日～8月9日で展示します。

＜場所＞ サンレイクかすや 展示ホール
粕屋フォーラム



原爆パネル展の感想

～たくさんお寄せいただきました。一部をご紹介します。～

- ・一つの身をこんなにされ心もつらかったでしょうね。こんなおそろしいことが起こらないことを心からねがいます。
- ・このパネル展を見て今からの小さい子ども達にあんな悲しい顔はさせたくないと思った。

電子掲示板でも平和週間についてご案内しています。

電子掲示板 設置場所

- ・粕屋町役場 1F総合窓口課
- ・イオンモール福岡
- ・JR長者原駅自由通路

粕屋フォーラム

平和週間コーナー

＜場所＞ 粕屋フォーラム1F
図書館



戦争や平和に関する本を紹介しています。
ぜひお立ち寄りください。

原爆投下の日に 黙とうを

8月6日と9日は、広島市と長崎市に原爆が投下された日です。粕屋町では原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈るため、原爆投下時刻にサイレンとお寺の鐘をならします。町民の皆様、原爆死没者慰霊のため、黙とうを捧げてください。

8月6日(火) 午前8時15分
8月9日(金) 午前11時2分



広島市提供 原爆の子の像



第37回 粕屋町 平和週間

令和6年8月4日～8月10日



世 世界の恒久平和は、全人類の願いであり、世界唯一の原爆被爆国である日本は、核兵器の廃絶と全面軍縮を世界に訴え続けていかなければなりません。

粕屋町では「核兵器廃絶と恒久平和宣言」の町として、8月4日から10日までの1週間を「粕屋町平和週間」とし、戦没者や原爆死没者のご冥福をお祈りするとともに、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを語り継ぎ、二度とこの過ちを繰り返さないよう町民みんなで平和について考え、平和に貢献するため、さまざまな行事を実施します。

町民の皆様の参加と、ご協力をお願いします。

(粕屋町)

子どもたちの明日のため 受け継ごう 平和への願い 粕屋から

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

例年、粕屋町在住の小学5年生とその保護者へ親子参加を募集し、平和祈念式典に参列しています。令和5年度は台風6号の長崎県接近に伴い、式典への一般参列は中止となりましたが、式典では原爆投下時刻に平和の鐘が鳴り響く中、犠牲者の冥福を祈り黙とうが捧げられました。また、長崎市長の「長崎平和宣言」、被爆者代表の「平和への誓い」が、核兵器のない世界の実現を願い、全世界に向け、力強く発せられました。粕屋町でも毎年、原爆死没者慰霊と世界の恒久平和を祈るため、原爆投下時刻に黙とうを捧げています。



長崎市提供

被爆78周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典会場



長崎市提供

被爆78周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で献花する長崎市長

粕屋町職員の平和への決意 (抜粋掲載)

粕屋町では、第5次粕屋町総合計画後期基本計画の中で持続可能な開発目標(SDGs)の1つである「平和と公正をすべての人に」の考えを取り入れ、人権と平和を尊重し合う地域社会の確立のため、平和の尊さを次世代に継承する取り組みの推進を明記しています。その取り組みのひとつとして、平和への願いを若い世代に引き継ぐため、粕屋町新規採用職員が「粕屋町職員としての平和に対する決意」というテーマでレポートを作成しました。そのレポートの一部を掲載します。

近年のロシアによるウクライナ侵攻を目の当たりにし、現代でも戦争は人の考え一つで起こってしまうのだと、痛感しました。粕屋町職員として、日本国民としてこれまでの悲惨な戦争の歴史について、学んだことを次世代の子どもたちに受け継いでいきます。また、今回初めて知った内容もあり、自分自身をより一層高めるために、学び続けていきます。

(戸次 邦木)

日本は被爆国であり、戦争と原爆に関する学習が重要視されています。ウクライナ情勢から核兵器の脅威が再び注目され、高齢化による平和運動への課題を意識しつつ、若者による核廃絶と平和の呼びかけが重要です。訪日外国人へ核兵器の危険性を伝える機会として積極的な情報発信を行いたいです。

(古澤 志)

戦争は過去のことでありません。今もロシア・ウクライナでは多くの方が命を落とし、厳しい生活を余儀なくされています。戦争で身体や心に傷を負いながら生きていくことや残された家族の気持ちは計り知れません。私は当たり前のように生活できることに感謝して、粕屋町職員として住民の生活と安全を守る責務を全うしたいと思います。

(政次 美歩)

戦後から時間が経ち、戦争を経験していない人のほうが多い今、戦争の事実を後世に伝えていくことが大切だ。私たちは被爆者から実際の話を聞ける最後の世代になるかもしれない。写真や本では知ることができない戦争の残酷さがある。だからこそ、戦争を知り、実際の声を後世に伝えていくことで戦争を忘れないようにしたい。

(佐藤 由奈)

私の平和に対する決意は、戦争の悲惨さを理解することです。戦争により犠牲になった命があるという現実から目を背けずに、問題に関心を向けることが大切だと思いました。私たちが平和に暮らしている今が、当たり前ではないということに心を留め、戦争の恐ろしさ、平和の尊さを次の世代へ受け継ぐことができるようにしたいです。

(鳥居 小夏)

戦後から長い年月が過ぎ、被爆者の実際の声を聴くことが難しくなってきました。戦争を経験したことがない世代が社会の中心となってきた現代で、平和を維持するためにできることはなにか。私は、若い世代がもっと政治に興味・関心を抱くことが平和への第一歩だと考えます。私たちよりもさらに若い世代のためにも、粕屋町役場職員として平和への取り組みを働きかけていきたいです。

(木戸 大介)

戦後から長い年月が経ち、当時を知る人々は高齢化に伴いその数が年々減少しています。被爆者の方の声を聴くことはより貴重なものになってきており、私たちは次の世代に継承していく義務・責任があると感じました。今、平和に過ごしていることは当たり前ではなく様々な犠牲の上で成り立っていることを忘れずに戦争についての学びを広げていきたいです。

(花田 浩紫郎)

戦争を二度と繰り返さないためにも、私たちは今後も平和について考え、語り継いでいかなければなりません。毎日当たり前のように起きて、朝を迎えられることがどれだけ幸せなことか、この日常が壊れないよう一人一人が平和に対しての意識をもち、次世代につなげていく必要があると感じます。

(池末 智美)

私は、戦争を二度と起こさないためにも、戦争未体験の世代が、戦争の歴史や戦争のもたらす悲惨な実相を学び、受け止めていくことが大切と考えます。そして、戦争体験者が平和を願う思いを継承してきたように、次は戦争未体験の世代がその思いを次世代へと紡いでいく責務があると思います。粕屋町職員として、戦争や平和について考える機会を作るとともに、戦争の悲惨さや平和の尊さを語り継いでいきたいです。

(田中 康裕)

戦争は人間が起こし、人間がやめない限り続きます。戦争・被爆経験者から直接話を聞くことが困難になりつつある今、私たちは戦争がどれほど悲惨で恐ろしい出来事であったか自ら学ぶ必要があると思います。そして、平和の尊さを理解するとともに、次の世代に語り継ぎ、二度と戦争が起こらない世界を作らねばならないと思います。

(山上 楓花)

ロシアとウクライナ間の戦争をはじめとし、世界から戦争や核兵器使用のニュースがなくなることはなく、今もまだ平和な世界とは程遠い現状にあると感じます。私たちが戦争とは無縁であるために、戦争という過去を知り、後世に伝えていくことが必要であると思います。これからも平和について考え、周りの人と共有する機会を大切にしていきたいです。

(平井 愛梨)

終戦から時間が経ち、当時を知る人の高齢化や世界情勢もめまぐるしく変わる今、私たちは戦争の歴史や平和の尊さを後世に語り継いでいく義務があると思います。粕屋町職員として、未来を担う子どもたちに、戦争の残酷さや核兵器の恐ろしさ、平和であることの喜ばしさを伝え、私自身も戦争や平和について向き合い続けたいと思います。

(毛利 愛香)

